



認知症サポーター養成講座の様子をお伝えします!!

1 認知症についてのおはなし

認知症は、様々な病気から脳細胞の働きが悪くなり起こってくる症状をいいます。誰もがなる可能性のある病気ですが、早期に対応をすることで進行を遅らせることができます。認知症を起こす病気の種類、記憶障害等の中核症状、意欲低下や抑うつ等の周辺症状について、スライドを使い、中学生にわかりやすく説明しました。



実際の例、治療や予防についても説明し、「東淀川区を認知症になっても安心して住めるまちにしていきたいと思います」と話を締めくくりました。



南西部地域包括支援センター 十鳥さん 南方ブランチ 茂木さん

学校という場所で、10代の生徒さん方の感性に触れることは、私たちにとっても大きな学びになります。生徒さん方の率直で素直な意見を聞くことで気が付くことも多くあります。認知症は高齢者だけの問題ではなく、皆で考えて行くことだと感じます。今後の社会を担っていく生徒さん方と共に学び、考える機会としてこの活動を継続していきたいです。

2 こんな時どうする? “いい例”“悪い例”を劇で紹介します



前半の講義で学んだ認知症の知識をもとに、後半は「こんな時どうしたら良いの?」ということ自身で考えてもらうための時間です。「正しい知識をもとに自分で考える」、「今の自分にできることは何か」ということを冷静に判断する」ということの大切さを理解してもらうことが、安心して暮らせるまちづくりにつながると思います。



東淀川区社会福祉協議会 東さん

悪い例



～冬のある日、公園で立ち話をしていると、お向かいに住む佐藤さん家のおばあちゃんが薄着で歩いています～

いい例



3 グループで話し合い、発表してもらいます



劇で紹介した“いい例”と“悪い例”を踏まえ、まずは個人で「公園を薄着で歩いているおじいさんがいたら自分ならどうするか」を考えます。その後、4～5名の班に分かれて15分程度話し合い、各々の意見を出し合ったものをまとめて発表してもらいました。

街中で不安そうにしている人がいたら、まずはさりげなく様子を見守り、前から優しくゆっくり話しかけましょう。



一度話しかけてうまくいかなかったら警察官や大人を呼びに行きます



ほっとけないので1人ではなく友達と2人以上で声をかけてみます

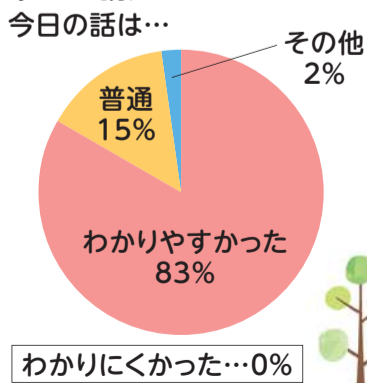


むくのき学園 中島中学校 西羅先生

自分たちは様々な世代・生活環境の方がいる社会の中で生活している。そして、その一員である自分たちは社会の中で何が出来るのか、どのように関わりを持てばよいのか。今回の「認知症サポーター養成講座」の取組を通して子どもたちには社会の一員としての役割を考え、相互扶助社会のために自分ができることを学びました。

認知症サポーター養成講座アンケート

●今日の講座について



●講座の感想

自分の祖母や祖父、両親などが認知症になった時、役立てたいと思った。

対応の仕方やサポートする側の立場を学ぶことができたので、もし自分がその立場になったら教えていただいたことをできるようにになりたいです。

劇での認知症の人への対応の仕方やグループワークでの対応の仕方がすごく心に残りました。公園とかで困っている人がいたら助けたいと思います。

世代を超えた認知症の理解

コロナ禍で、人との交流が少なくなってきたおり、認知症の患者さんにとっては、悩ましい問題です。

買い物の場面や通学・通勤で不安気な高齢者を見かけたとき、ちょっとした声かけが、認知症の方の安心につながります。そのためには、大人だけでなく、子供たちを含めた若い世代にも認知症について正しい理解が求められます。

自分達の家族や、ご近所で認知症の方を温かく見守っていただくためには、世代を超えたサポーターが必要です。

東淀川区では、PTAや学校関係者へも認知症サポーター養成講座を実施しています。認知症の方をサポートでき、安心して暮らせる街づくりをめざしていきましょう。



東淀川区長 西山 忠邦